

「規制改革ホットライン」への提案内容と所管官庁回答(クルーズ船入港時の入国審査手続の見直し)

提案事項	クルーズ船入港時の入国審査手続の見直し	
提案の 具体的内容等	<p>【要望の具体的内容】</p> <p>クルーズ船入港時の入国審査手続の迅速化・円滑化を図るため、入国審査体制の強化を図りつつ、大型クルーズ船については、入国審査官が事前に海外から乗船し、上陸する外国人乗客に対し航行中の船内で入国審査手続を完了する海外臨船審査を実施すべきである。</p> <p>加えて、外国人乗客の利便性を向上し、入国審査官の負担を軽減するため、他国のクルーズ船への対応事例も参考に、対面式入国審査・写真撮影・指紋採取を省略する、パスポートに代えて運行会社が発行するクルーズカードでの上陸を認める等の新たな制度を検討・導入すべきである。</p> <p>【規制の現状と要望理由等】</p> <p><規制の現状></p> <p>政府は2012年6月から乗客数2,000名超の大型クルーズ船に対しては、入国審査官が海外から乗船して航行中に船内でパスポートをチェックするとともに、外国人乗客に対して従来行っていた顔写真の撮影は省略する等の手続の簡素化を行っているが、入港後に指紋の採取と個人識別情報との照合を行う時間が取られるため、外国人乗客の国内への滞在時間が短くなっていた。</p> <p><要望理由></p> <p>海外臨船審査の実施により、上陸を希望する外国人乗客に対する入国審査手続が航行中の船内で完了することになれば、クルーズ客は国内での滞在時間を長くすることができる。また、他国が行っているような対面式入国審査・写真撮影・指紋採取等の省略、クルーズカードによる上陸が可能になれば、乗客と入国審査官の負担が軽減され、乗客にとっての利便性が高まる。</p> <p><要望が実現した場合の効果></p> <p>外国人乗客の負担軽減・利便性の向上は外国人のわが国に対する好印象を強め、訪日外国人観光客数の伸びに繋がる。また外国人乗客のわが国での滞在時間の増加は、上陸中に観光や買い物に向ける時間の増加につながり、国内消費の増大による経済の活性化に大きく貢献する。</p>	
提案主体	(一社)日本経済団体連合会	
所管官庁	法務省	
所管省庁の 検討結果	制度の現状	大型クルーズ船の乗客を対象として、寄港地上陸許可を活用した審査を実施するとともに、クルーズ船対応のため入国審査官を増員する等、入国審査手続の迅速化・円滑化に取り組んでいます。
	措置の分類	対応不可
	該当法令等	出入国管理及び難民認定法第14条
	措置の概要 (対応策)	<p>大型クルーズ船に対する入国審査の迅速化・円滑化については、「日本再興戦略」及び「観光立国実現に向けたアクション・プログラム」を踏まえ、海外臨船審査の実施も含め、別途、新たな方策を検討しています。</p> <p>また、対面式入国審査・写真撮影・指紋採取の省略、パスポートに代えて運行会社が発行するクルーズカードでの上陸を認めることについては、テロ対策や水際対策等の観点から適当ではないと考えます。</p>